

事業名 CD	0108040102	都市計画運営事務	
細分化した事業名			
事業担当課室 CD	300200	建設課	整理コート*

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	心地よい定住環境のあるまちづくり	
	中項目	便利な生活のための都市基盤の整備	
	小項目	計画的な土地利用	
関連する個別計画等		根拠条例等	都市計画法
関連する事業			

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	都市計画施設の整備は、都市基盤の骨格をなすもので都市計画道路、都市公園を整備することにより市民が安心に、また安全に暮らせる住環境に資するものである。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	市民、交通車両、公園利用者
これまでの改善経過	既都市計画決定路線の整備 都市公園4箇所の整備
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	〈実施・運営方法〉 <input checked="" type="checkbox"/> 市 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他( ) 都市計画法による計画決定、事業認可、用地取得、補償、施設整備
事業の成果 (どのような状態にしたいのか) (どのような効果を得るのか)	市街地における車両の円滑な走行 災害時緊急避難路、緊急物資輸送路の確保 市民の憩いの場の提供 災害時避難地の確保

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		19年度	20年度	21年度	
A	事業費 (千円)	5,177	744	509	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金	1,017	65	59	
	市債				
	その他				
	一般財源	4,160	679	450	
B	担当職員数(非常勤   職員E) (人)	0.83	0.10	0.10	
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	690	345	682	
D	総事業費(A+C) (千円)	5,867	1,089	1,191	
*参考		H21)市民1人当りの事業コスト	37 円	H21)市民1人当りの行政サービス費用	579,596 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。  
 注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、19年度(6,901千円)、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)を使用しています。  
 注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分かりやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			19年度	20年度	21年度
活動指標	新規都市計画道路の抽出数(箇所)	新規都市計画道路調査箇所	0	0	4
	新規都市公園の抽出数(箇所)	新規都市公園調査箇所	0	0	9
成果指標	都市計画道路整備率(%)	整備済延長(m) / 都市計画決定延長(m)	73.14	73.62	75.10
	一人当たり公園面積(m <sup>2</sup> /人)	整備済都市公園面積(m <sup>2</sup> ) / 都市計画区域内人口(人)	9.14	9.14	9.14
効率指標	調査コスト(千円)	調査に要した人件費	0	0	341

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 都市計画道路、都市公園の整備は、車両の円滑な走行、災害時非難路の確保、及び市民の憩いの場、災害時の避難地確保のため必要な施設であり妥当である
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 新規道路4路線と、新規公園9箇所を抽出して、公園については土地調査を行ない事前評価の基礎資料が得られた
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 職員が図上、現地調査および土地調査を行っておりほぼ効率的である
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成
今後の事業展開	<input checked="" type="checkbox"/> 重点化(コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善(実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化(結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化(事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合(他の事業と統合する、または廃止する) <input type="checkbox"/> 現行どおり
改善・改革案	<b>改善・改革の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)</b> (1) 中長期的 都市公園については都市計画法による手続きを経て事業化を図る。 都市計画街路については、県ならびに甲府圏市町村の動向をみながら都市計画街路の見直しを行う
	(2) 23年度 都市公園については22年度において絞り込んだ公園候補地について事前評価を行い、具体的な整備計画を立てる 都市計画道路については、前年度の調査結果を基に新規路線、廃止路線の素案を作成する
	(3) 22年度 都市公園は、21年度に引き続き都市計画区域内の公園整備箇所の抽出を行い、事前評価対象を絞り込む 都市計画道路については、山梨県において甲府圏都市計画道路のシミュレーションを行っているため、その結果を踏まえ道路整備WGの中で廃止路線も含め検討する
21年度の改善計画	新規道路計画路線、公園計画箇所の抽出を行う
21年度の改善結果	新規道路計画路線4路線と新規公園計画9箇所の抽出を検討した
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること)	都市公園の計画も整備後のボランティアによる維持管理コストを抑えるため、設計段階から地元の参加を促すことが重要である 都市計画道路の見直しは、土地所有者の建築制限を伴うため地元の理解を得ることが重要である。
課長所見	都市計画道路については、現状を踏まえ見直しの後、事業化を図る。公園については、市街地に街区公園を設置するための構想を立案し、早期、事業化を図る。